

# 柏崎刈羽原発再稼働ストップにむけ県民への呼びかけ発表

## 日本共産党新潟県委員会が初めて原発問題で活動者会議開催



発・エネルギー対策委員会の鈴木剛さんが「原発をめぐる全国の情勢とたたかい」と題して講演しました。

この中で、鈴木さんは、「安倍内閣はエネルギー基本計画、長期需要見通しの中で原発を『重要なベースロード電源』と位置付け、2030年には年2割超をめぐらすとしている。規制基準は安全を保障したものではない。再稼働反対の世論や周辺住民の事故への不安も無視して再稼働の強行を続けている」と批判しました。同時に、2013年9月から、日本では稼働原発ゼロが1年11カ月続き、原発がなくても電力が足りると実証されたこと、大飯原発福井地裁判決で「生存を基礎とする人格権が優先」ということが示されたことの意義などを明らかにしました。

その後、党県委員会の川俣幸雄副委員長が報告を行いました。この中で、川俣さんは、「柏崎刈羽原発の再稼働をストップさせましょう：地域経済への効果も限定的、電気は足りています」と題した県民への呼びかけ文を発表しました。

呼びかけ文では、①「原発停止で地域経済が疲弊」は根拠のない「神話」であること、②柏崎刈羽原発は「豆腐の上の原発」であり、動かしてはならないこと、③「新規制基準」が「世界でも厳しい基準」と安倍内閣が宣伝しているのは大ウソであること、④住民の避難計画を再稼働の審査対象としないことは誤りであることなどを明らかにしています。そして最後に、世論と運動で柏崎刈羽原発の再稼働ストップをと訴えていきます。

私もこの呼びかけ文の全文を読みましたが、柏崎刈羽原発が軟弱な地盤の上に建っていること、原発の廃炉事業は長期に仕事や雇用をつくり、原発労働者を切り捨てることがないこと、「フィルター付きベント」が放射性物質を1000分の1まで減らせるには至らず、6分の1程度までしか減らせないことを明らかにするなど、これまでの研究やたたかいの到達点を踏まえた重要な文書だと思いました。

川俣さんは、今回の会議は柏崎刈羽原発に関する原子力規制委員会の審査結果がいつ出ても対応できるように、「再稼働反対」の論拠を明確にするとともに、「再稼働ストップ」「原発ゼロ」をめざす戦略的な方向を確認し合うために開いたと語りました。報告後は県内各地で

日本共産党新潟県委員会は24日、長岡市で原発問題の活動者会議を開催しました。荒れ模様の天気にもかかわらず、県内各地から100人を超え、人が集まりました。

今回の会議では、日本共産党中央委員会原

その後、党県委員会の川俣幸雄副委員長が報告を行いました。この中で、川俣さんは、「柏崎刈羽原発の再稼働をストップさせましょう：地域経済への効果も限定的、電気は足りています」と題した県民への呼びかけ文を発表しました。

呼びかけ文では、①「原発停止で地域経済が疲弊」は根拠のない「神話」であること、②柏崎刈羽原発は「豆腐の上の原発」であり、動かしてはならないこと、③「新規制基準」が「世界でも厳しい基準」と安倍内閣が宣伝しているのは大ウソであること、④住民の避難計画を再稼働の審査対象としないことは誤りであることなどを明らかにしています。そして最後に、世論と運動で柏崎刈羽原発の再稼働ストップをと訴えていきます。

私もこの呼びかけ文の全文を読みましたが、柏崎刈羽原発が軟弱な地盤の上に建っていること、原発の廃炉事業は長期に仕事や雇用をつくり、原発労働者を切り捨てることがないこと、「フィルター付きベント」が放射性物質を1000分の1まで減らせるには至らず、6分の1程度までしか減らせないことを明らかにするなど、これまでの研究やたたかいの到達点を踏まえた重要な文書だと思いました。

川俣さんは、今回の会議は柏崎刈羽原発に関する原子力規制委員会の審査結果がいつ出ても対応できるように、「再稼働反対」の論拠を明確にするとともに、「再稼働ストップ」「原発ゼロ」をめざす戦略的な方向を確認し合うために開いたと語りました。報告後は県内各地で



【サツマイモ】サツマイモをクチナシの実で色づけし、レモンで煮たもの。黄色が一段と美しい色となり、輝いていました。先日、板倉区でご馳走になったものです。言うまでもなく、味も抜群でした。

### 日本共産党 市議選で4人擁立へ

日本共産党上越地区委員会（上野公悦委員長）は26日午前、市役所内で記者会見を行いました。

会見で上野委員長は、安倍暴走政治ストップと、市民の暮らし最優先の市政実現をめざして、4月24日投票の市議会議員選挙で4人の候補を擁立して闘うことを発表しました。

4人の予定候補は、上野こうえつ（現）、ひららぎ哲也（現）、はしづめ法一（前）、はしもと正幸（新・旧三和村議）です。全力で頑張ります。



今年初めて絵手紙が高田のYさんから届きました。絵も文字も素敵です。

# はしづめ法一の活動レポート

No.1742 2016.1.31

発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第三九〇回 障子戸

早いものですね、柏崎の義父が亡くなってから丸五年が経ちました。先日、義父の法要が自宅で営まれ、妻とともに参加してきました。

午前一〇時半までに来てくれと言われていたのですが、冬道ですから遅くならないようにと家を九時過ぎに出ました。この日、空は曇っていたものの、白いものは落ちてきません。着くまでの所要時間は夏場とほとんど変わらず、約四〇分でした。

この日は寒かったですね。石油ストーブは広間に二台設置してあったのですが、この広間は天井が高く、すぐには暖まりませんでした。いったんストーブの近くで体を暖めたら、そのそばからなかなか離れられなくなりました。

お経が始まったのは午前一一時近くになってから。柏崎の義母、義兄など六人が仏壇の前に並びました。私は柏崎の家から見れば「お婿さん」です。広間と座敷の境となる場所で、「舍利礼文」「修証義」などを目で追いました。

この日の法要に来られた方丈（ほうじょう）さんは慶福寺の副住職さんです。張りのある、澄んだ声が広間まで響きました。

お経が始まって間もなく、私の席の左後ろ方向にある障子戸が明るくなりました。陽が照りはじめてきたのです。障子戸の外側は縁側です。障子にはそこに置いてある物の影が映っていました。戸を開けて見たわけではないので定かではないのですが、たぶん、座布団と何かが置いてあったのでしょう。私にはウサギの形に見えました。

いうまでもなく、障子戸の明るさは陽の照り具合で強くなったり弱くなったりします。その変化がなんとも言えない雰囲気をつくりだしていました。私にとっては、生前の義父のことを思い出す舞台となりました。

そもそも障子のすぐ外の縁側は、義父がよく使っていた場所でした。イスが置いてあり、義父はそこに座って新聞を読んだり、物思いにふけていたりしていました。

障子に映った影を見ながら私が思い出したのは義父が亡くなった前年の秋の晴れた日の出来事です。この日は私たち夫婦と妻の姉夫婦が義父の家を訪ねました。ちょうど、家の前庭にある数本のモミジの葉が見事に色づいていました。みんなでモミジを愛でながら、おしゃべりを楽しみました。妻は耳が遠くなった義父と指相撲をやり、その様子をまわりのものが見て、微笑んでいました。何よりも義父がうれしそうでした。そんな光景が私の脳裏に刻み込まれたのは、義父の自慢だったモミジの紅葉をみんなで楽しんで最初で最後のことだったからです。

法要が終わって方丈さんが座敷の高いところに掲げてある義父の遺影をじっと見つめ、いつ頃撮影したものかと訊いて来られました。もう二〇年も前の親戚の結婚式に撮った写真だそうで、田んぼ仕事も現役だったとか。顔がきりつとしていました。

この遺影の話をきっかけにして、みんなが義父のことや昨年亡くなった方丈さんのお連れ合いのことなどを語りました。義兄は「父は歴史だとか家系図に興味を持っていました。墓地にある墓誌も父が作ったんです」と方丈さんに伝えました。たぶん、墓誌の制作にあたってはお寺のお世話になったはず。話がはずみました。

お斎が済んで三〇分ほど休んでから、柏崎の家を出ました。玄関からは少し下り道で、右側にモミジの木が植わった庭が広がっています。三杯ほど下ったところで雪の下になり、つぶされそうになっているスイセンの黄色い花を見つけました。この花もおそらく義父が植えたものです。春にまた元気な姿を見せてほしいと思いました。

お斎が済んで三〇分ほど休んでから、柏崎の家を出ました。玄関からは少し下り道で、右側にモミジの木が植わった庭が広がっています。三杯ほど下ったところで雪の下になり、つぶされそうになっているスイセンの黄色い花を見つけました。この花もおそらく義父が植えたものです。春にまた元気な姿を見せてほしいと思いました。

## 上越地域でも野党共闘 求め討論集会開催へ

「戦争法No!」上越実行委員会は、2月13日（土）午後1時30分より野党共闘に向けた討論集会を開催することにしました。

テーマは「野党共闘どう創る？」（仮タイトル）。第1部では、「市民連合@新潟」の共同代表である水内基成弁護士が基調報告を行い、第2部で政党関係者、市民団体関係者から参加してもらって討論会を行う予定だそうです。どんな討論が展開されるのか楽しみです。

なお、場所は上越文化会館中ホールです。

## 吉川新年会に100人

吉川区新年会が23日午後3時45分から吉川多目的集会場にて行われました。100人近い人



ちが集まりました。区内に住んでいる人だけでなく、区内の事業所や学校の人でも大勢参加されていました。

同じ区に住んでいてもなかなか会えない人が多く、つい話がはずみます。すべてのみなさんと挨拶をかわりたいと思っていたのですが、回りきれませんでした。挨拶に行けなかった皆さんには失礼しました。お許しください。

会では、久しぶりにビールやお酒を飲みながら、原発再稼働の問題やいまの市議会のことなどで意見を交わすことができました。上の写真は新年会の実行委員長である、まちづくり吉川の加藤大助会長が新年の挨拶をされているところです。



【風紋】吉川区小苗代池で22日、風と雪が作った珍しい風景が出現しました。

## 上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月20日(水)	1月27日(水)
上越南消防署	0.050	0.040
上越北消防署	0.053	0.040
新井消防署	0.053	0.043
頸北消防署	0.057	0.057
頸南消防署	0.060	0.053
東頸消防署	0.060	0.050
高士分遣所	0.063	0.060
名立分遣所	0.050	0.053